

戊辰戦争記念碑

この高い石碑は、戊辰戦争（1868-1869）で戦った松本藩士 261 名を記念して建てられたものである。戊辰戦争は明治維新の第一段階であり、徳川幕府（1603-1868）の終焉、社会と政治の大転換、工業化の急速な進展のきっかけとなった。

松本藩は、1868 年 2 月 29 日、江戸（現在の東京）の北西部に兵を派遣し、討幕派に味方した。碑の表面には戦いの様子が、裏面には 261 名の松本藩士の名前、立場、運命が記されている。

全国城郭管理者協議会加盟の城

本丸庭園の南側には、城の写真を並べた長い塀がある。ここに写っている城はすべて、全国の城の運営を管理する地方公共団体や城郭管理者の連合体である「全国城郭管理者協議会」に加盟している城である。